

【新聞活用学習】 全校研究／小学5年生・国語科

「新聞に親しみ、新聞活用のあり方について考えよう」

～ 『「コミュニケーション力」につながる表現力の育成』 に向かう、NIEのあり方～

指定校1年次 大町市立大町東小学校 大曾 雪絵、小山 正博

### (1) 本年度のNIE活動の概要

研究指定校1年目の実践として、本校重点研究部会でねらっている『「コミュニケーション力」につながる表現力の育成』を具現する手段の一つとして、新聞をどのように活用できるかを、実践授業を通して考えたり、全校が新聞に触れる機会を増やしたりした。

実践授業では、児童の生活に深く関わっている「円安」という事象について、新聞記事を読み解きながら友だちと考えを深め合い、自分なりの考えを明確にさせていくことができた。このことから、新聞には、「今、自分（児童）の身の周りで起きていること」に対して、インターネットやSNSなどの不確かな情報とは違い、ありのままの事実として捉えられる良さがあるとわかった。しかし、新聞記事に出てくる言葉の難しさや、「円安」について児童がどこまで考えることをねらいとすべきかなど、課題も見えてきた。また、考えたい事象の背景にある状況把握など、段階的な事前学習や準備が必要な場合があることもわかった。

今後は、国語科や社会科など、各学年の年間指導計画に新聞活用を盛り込むことで、本校がねらう『「コミュニケーション力」につながる表現力の育成』に向けた新聞活動を、どの学年でも計画的に実践できるようにしていく。また、新聞を身近に、興味深く感じられるような活用方法（新聞に載っている写真や文字を集めるなど）を見出すなど、どの学年でも簡単に実践できるNIEを広げていきたい。

### (2) 本年度のNIE活動の取り組み状況(4月時点)

本校は全校児童136人、9学級（全学年単級＋特別支援学級3学級）ある。昨年度まで、3～6年生では、社会見学後や調べ学習の後などに、新聞作りやリーフレット作り等の活動を行っていた。図書館には、新聞コーナーがあり、地元紙「大糸タイムス」などで児童の様子が取り上げられると、司書の先生が全校に注目してもらえるように掲示していた。NIEの新聞購読は9月からを予定していたため、4月時点での新聞活用は特に行わなかった。

1年生（15人）は、新聞をとっている家庭は大よそ半数であり、研究授業学級の5年生（28人）でアンケートをとったところ、新聞を読まない（又はとっていない）児童は9人だった。新聞を読む児童では、テレビや天気予報以外を読むという回答が多かったが、ニュースやスポーツ記事に関心を寄せている様子も伺えた。

### (3) NIE活動のねらい(育てたい力)

本校の全校研究テーマは『「コミュニケーション力」につながる表現力の育成』である。東小では、「コミュニケーション力」は、児童にとって重要な力だと考えている。なぜなら、様々な人とコミュニケーションを取り合い、自己認識を深めたり他者の考えを知ったりして成長していくことは、様々な社会の中で生き、自己実現をしていくことにつながるからである。そして、「コミュニケーション力」を伸ばすためには、児童の表現力を養うことが必要だと考える。表現力（自分の考えを持ち、言葉や文字で他者へ発信する力）を養うためには様々な力が必要だ

が、本校では授業における「問いのあり方」を中心に、重点研究部会での研究を深めてきた。児童が「もっと知りたい。」「友だちと話し合ってみよう」と思うような問いを教師が投げかけることで、児童はより主体的に考えを働かせて表現しようとするからである。この、「問いのあり方」を授業の中心に据えて、本校ではNIEの目標を以下の通り設定した。

- ① 児童が新聞に親しみ、新聞から得た情報をもとに思考力・判断力・表現力を働かせ、自分の考えを発信できるようになる。【表現力の育成】
- ② 新聞を読んだ友だちの考えを取り入れたり比較したりして互いの考えを交流し、ともに学び合うことができる。【コミュニケーション力、協働の学び】

#### (4) 全校での取り組み

##### 《NIEコーナーの設置》

児童や教職員が日常的に新聞に親しむ機会を増やしたいと願い、高学年（3～6年）昇降口前に『NIEコーナー』を設置した。9月から、朝日新聞・中日新聞・産経新聞・日経新聞・信濃毎日新聞・読売新聞・毎日小学生新聞の6紙を学校に届けていただけるようになったので、それらの新聞を並べ、全校児童がいつでも手に取って読めるようにした。



NIEコーナーにある新聞スクラップ  
毎日小学生新聞 2022年9月14日

他にも、「NIEとは」「新聞スクラップコーナー」を掲示したり、図書館司書の先生が毎日小学生新聞の記事にコメントを書いたりするなど、児童が新聞に親しみやすいように工夫した。

「新聞スクラップ」は、全校が興味を持つような新聞記事を一つ取り上げて、問題提起をするような問いを全校に投げかけた。(例えば、登校時の日傘についての記事を掲示して「登校時の日傘、賛成ですか？反対ですか？」という問いを投げかけた。)そして、興味を持った児童が自分の意見を書けるように、付箋やシールの設置を行ったところ、主に4～6年の児童が、賛成・反対のシールを貼ったり、付箋に自分の意見を書いたりしていた。また、付箋に書かれた意見をお昼の放送で全校に伝える機会も設けた。新聞が届いた4カ月間、毎日のように新聞を読む児童も見られ、児童が新聞に親しみ、新聞を身近に感じる事ができた。

##### 《1年生における、新聞スクラップの活用》

1年生では、全校に向けて掲示した「新聞スクラップ」の記事の中から、「ラーメンスープが燃料に!？」の記事をもとに、グループで話し合った。

1年生では、新聞は図工や遊びの材料として活用したり、清掃時に細かいゴミを包むために利用したりするなど、遊びや生活の中で活用されている。1年生にとっては、たとえ子ども向けの新聞でも、読み解くのは相当難しい。そこで、1年生でも考えやすい記事を取り上げ、記事の概要について担任が説明した後、グループに分かれて「スープの他にも、燃料になったらいいと思う物は、どんな物？」という問いについて考え合った。新聞記事をもとに「ラーメンができるなら、うどんのスープはどう?」「もう使わないものがあるから…雨を集めて燃料にするのはどうだろうか?」と、思い思いに自由なアイディアを発信しながら考えを交流し合うことができた。ラーメンスープの記事は、「明確な答えがなくてもよい問い」だからこそ、1年生で

も自由に話し合いを進めたり、他のグループの考えを聞いて共感したりすることができ、環境について考えるきっかけにもなった。

### 《6年生における、週末の宿題における新聞活用》

6年生では、「気になるニュース（新聞記事）を読んで、自分の考えや感想を書こう」という家庭学習を週末に行った。これは、国語の教科書の初めにある「気になるニュースを集めよう」の小単元からの活動である。決められた字数制限で要旨をまとめる難しさはあったが、繰り返し行うことで要旨をまとめる力をつけることに役立った。また、家庭で新聞をとっていない児童は、学校の新聞から記事を選んで取り組むなど、個々の実態に応じて取り組めるように工夫した。さらに、時間がある時には書いてきたものを友だちと読み合い、コメントを書いて渡し合うことで互いの考えを交流することができた。これらの活動から、新聞を読むことに興味をもち始めた児童もいた。

## （5）公開授業などの活動内容

単元名 「新聞を読もう」～円安から読み解き、社会の輸出入につなげよう～

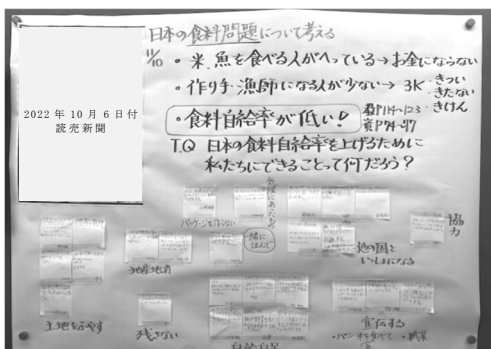
（小学校第5学年・国語）

### ① 単元設定の理由と概要

5年生は、4年生の2学期に保護者を読み手として国語の『長野県の特産物のリーフレット作り』に取り組んだ経験を活かして、3学期には、都道府県の特産物や気候などの特徴をまとめた都道府県新聞を各自で作成した。それらの新聞は、クラス内で見合ってから、図書館前に掲示し、全校に向けての展示とした。5年生になってからはそれまでの経験を活かし、1学期に社会科で『暖かい地方や寒い地方の人々の暮らし』で調べたことを新聞にまとめ、お互いに感想を渡し合った。ここまでは新聞を「読み手を意識して作る」・「発信する」・「感想を伝え合う」という作業であった。さらに、2学期に国語の単元『新聞を読もう』で、学校で購読している6社の新聞を並べ、「国葬」についての記事を比較する学習を行った。子どもたちは、新聞は、同じ事象でも会社によってレイアウトが違うことだけでなく、大見出しの書き方（言葉）のニュアンスがそれぞれの新聞社によって違うことを感じ取ることができた。また、社会の『これからの食料生産とわたしたち』では、国産のお茶が値上がりしている



友だちの新聞にコメントを書く児童



食料生産の記事をもとに考えを持つ  
読売新聞 2022年10月6日

という読売新聞の記事を使い、「日本の食料自給率を上げるために自分たちができることって何だろう？」といった問いに対して考え、実現に向けた自分なりの企画書作りの学習も行った。このような社会問題のような自分たちにより近い課題に対しては、子どもたちはいつも以上に熱心に取り組む姿が見られた。NIEが子どもたちに求める「地域や社会の中で課題を見つけ解決のために行動する力をつける」ための学習は、子どもたちにより切実感を与え、深く考える場面を作りやすいのかもしれない。

これらの学習を踏まえてわかったこととして、以下のように考えた。

- より身近な話題に対して活動が展開されると、子どもたちの活動は活発になる。
- 読み手を意識して記事を書いた場合、使われる言葉やレイアウトが明確に変わる。
- お互いに作った新聞を読み比べたり、評価してもらったりすることで、子どもたちの学習意欲が高まる。
- ▲全ての子どもたちが、通常の新聞の内容を読み取ることは非常に難しいが、子ども新聞であれば、読み解きやすくなる。

これらのことから、

- 子どもたちにとって身近で読み解きやすい記事の精選や吟味を行うこと
- 重点研究目標『「コミュニケーション力」につながる表現力の育成』の具現に向かい、子どもたちの意欲をかき立て、互いに表現し合いながら考えを深め合うことができるような問いのあり方を追究すること

を考え、本単元を設定した。

## ②単元の目標

複数の新聞の記事を読み比べて、見出しや写真の工夫などによる効果を理解しながら、発信者の意図の違いで内容や表現が違うことに気付いたり、新聞の見出しが意味する社会事象の記事から読み取ったりすることができる。

## ③単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文の中での語句の係わり方や語順、文と文との接続の関係、語や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。</li> <li>・事実と感想、意見などの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで本や新聞を読み、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>

## ④単元展開

次	学習活動	指導上の留意点	評価・評価方法
一 (第1時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一面の新聞記事をもとに、見出しやリード文などがどのような構成になっているのかを捉えながら、新聞記事を読む。</li> <li>○実際の新聞にはどのような分野の記事が書かれているのか調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞に関するアンケート結果から新聞記事を読まない原因などを示し、新聞への関心を高める。</li> <li>・新聞記事は、「逆三角形の構成」で書かれていることを確認する。</li> </ul>	知識・技能① <u>ワークシート</u> <input type="checkbox"/> 文章の構成についての記述の確認
二 (第2時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○桐生選手について書かれた全国紙と地方紙の新聞記事を読み比べ、なぜ違いがあるのか考えたことを話し合う。</li> <li>○けん玉の新聞記事を読み比べ、もとは同じソースでも新聞社によって違いがあることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの記事の違いに着目して話し合うことで、違いがある理由に着目することができるようにする。</li> <li>・見出し、使用写真、レイアウトの違いにどのような意図があるのか考えさせる。</li> </ul>	思考・判断・表現① <u>ワークシート・新聞</u> <input type="checkbox"/> 記事への書き込みと必要な情報を見つけて書き表したものの内容の確認。

三 (第3・4時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大谷選手の年俸が何もしていないのに1.5億円増えた原因を探る。(本時)</li> <li>○円安によって及ぼされる社会事象について、新聞記事から見つけ出し、話題に挙げる。</li> <li>○工業製品の輸入や輸出にも円安が関わっていることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の見出しや数値に注目し、友だちと叙述の内容を押さえたり、これまでの学習と関連づけたりして考えさせる。</li> <li>・『毎日小学生新聞』に書かれている円安に関わる記述について確認しておき、探せないようなら期日を伝え確認させる。</li> <li>・円安の影響を受けた後に輸入された外国けん玉の価格変化から、工業製品に対しての円安の影響に興味を持たせる。</li> </ul>	<p>思考・判断・表現② ワークシート</p> <p><input type="checkbox"/> 問いに関わる叙述をメモとして記述しているかの確認。</p>
			<p>主体的に学習に取り組む態度 観察・ふり返りの記述</p> <p><input type="checkbox"/> 文章の構成についての記述の確認</p>

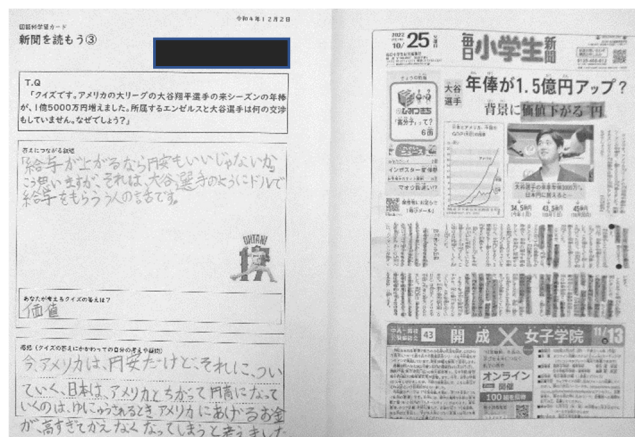
⑤本時案 (全4時間中の第3時)

- ・主眼 大谷選手の年俸が何もしていないのに1.5億円増えた原因を探る場面で、新聞の見出しや数値に注目して、友だちと叙述の内容を押さえたり、これまでの学習と関連づけたりすることを通して、年俸が増えたことは円安が原因で起きている事象であると記事からとらえることができる。
- ・指導上の留意点
  - 大事な叙述にはマーカーで線を引いて、見直しするように子どもたちに伝える。
  - 展開が早く進んだ時は、円安の他の記事を活用できるように準備しておく。
- ・展開

	学習活動	予想される児童の反応	支援・評価	時
導入	①新聞記事を確認する。 ②今日の問いを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大谷選手の年俸上がったの？</li> <li>・「価値下がる円」って何？</li> <li>・10月に入って43.5億円が45億円なの？</li> </ul>		4
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;"> <p><b>T.Q (Today's Question=今日の問い)</b>            「クイズです。アメリカの大リーグの大谷翔平選手の来シーズンの年俸が、1億5000万円増えました。所属するエンゼルスと大谷選手は何の交渉もしていません。なぜでしょう？」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交渉していないのになんで年俸が上がるの？</li> <li>・何か原因があるかも。</li> </ul>		2
展開	③年俸が上がった原因をグループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事に何か書いてあるかもしれないよ。</li> <li>・ヒントは見出しにあるみたいだよ。</li> <li>・「円安が進み」って書いてある。メモしよう。</li> <li>・そもそも「円安」ってなんだ？</li> <li>・「国力が落ちる日本」って書いてあるけど、どういうことだ？</li> <li>・円を売って、ドルを買う人が増えると円安になるらしいよ。</li> <li>・多くの日本人がよくないことが起きているって。</li> <li>・物価が高くなるって書いてある。確か、国産のお茶の価格が上がったことも円安が影響したって勉強しなかったっけ。</li> <li>・後ろの壁に掲示してあるから確認してみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大切な叙述は学習カードに記入していくことを促す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円安の影響がこれまでの学習に出てこなかったか問う。</li> </ul>	25  7
まとめ	④本時をふり返る。  ⑤次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円安が影響したからです。</li> <li>・大谷選手は年俸が上がったけれど、物価が高くなるから良いとは言えないな。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円安ってどんな影響を起しているのかな。</li> <li>・円安の記事を見つけるぞ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T.Qの答えを確認する。</li> <li>・円安は良いことか問う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回は円安に関わる新聞記事(『毎日小学生新聞』)を探すことを伝える。</li> </ul>	5  2

## (6) 児童の反応

K 児は、記事に書いてあるキーワードに着目しながら「答えは『年俸』だ！見出しにある！」とつぶやき、同じ班の児童に自分の考えを伝えていた。大見出しには「年俸が 1.5 億円アップ!？」と書かれていたことと、提示した記事の答えになる部分が〇〇(2文字)になっていたからだろう。そこから記事を読み込んでいくと少しずつ K 児の考えが変わっていった。同じ班の N 児はずっと「答えは『円』じゃないかな。」とつぶやきながら、円という言葉にマーカーを引いていた。K 児もそれを見て、同様に「円安が進み…」という文章にマーカーを引いた。記事を読み進めていくと「年俸」「価値」「円高」「円安」と、様々な答えらしきキーワードが浮かび上がってくる。今度は「価値だ！」と考えを変え、クロームブックで「価値」という言葉を調べたり、友だちと考えを交流させたりしていた。最終的に答えには辿り着かなかったが、この 1 時間を通して、K 児にとって円安が日本だけでなく世界的なつながりをもった一つの事象として捉えられたことは確かである。



K 児の学習カード/毎日小学生新聞 2022 年 10 月 25 日

新聞記事は、その言葉の難しさゆえに読み込みが進まない事実はあるものの、だからこそ「こうじゃないかな?」「もっと知りたい。」「考えてみたい。」につなげることができる教材でもあることが見えてきた。

## (7) 成果と課題

研究指定校 1 年目の実践として、全校児童が「新聞に親しむ」「新聞に触れる」機会を増やすことはできた。また、どの学年でも新聞を活用した授業や新聞作りに関わる活動を展開することができた。しかし、NIE は意識して取り組まないと、教科書教材以外では取り組まずに終わってしまいがちである。5 年生の実践授業を通して考えると、本校がねらう『「コミュニケーション力」につながる表現力の育成』を具現化する手段の一つとして、常に「私たちの今」を伝えている新聞の活用はとても有効である。

2023 年度は、指定校 2 年目として NIE を重点研究部会の一つとして立ち上げることで、また、各教科の年間指導計画に NIE を盛り込むことを計画している。そして、今年度以上に NIE を身近に感じられるように、出前授業や職員研修等、全職員が NIE に関わる機会を増やしていきたい。実際、もっと気軽に NIE を広げられるような取り組みができるとよいのだが、これまでに述べたように、「記事を読み解くことの難しさ」「授業準備の大変さ」「家庭の新聞離れ」など、様々な要因で新聞活用が疎遠になりがちだと思われる。「あ、今日のこの記事、面白いな。少しだけ朝の会で扱ってみようかな。」のような考えで先生方が活用できることも、大切だと考える。来年度は、「新聞記事をしっかり読み解き、考えを交流し合い、表現力を高めること」「さらっと新聞記事の一部を取り上げ、自由に意見を交流し合い、表現力を高めること」のどちらもできるような取り組みを広げていきたい。

可能であれば、全校児童が興味関心を持って読むことができる「子ども新聞」は、通年で購読できるようご配慮いただけるとありがたい。また、ICT 機器を活用して新聞作りに取り組めるようなアプリやソフトを児童のタブレットに入れられると、新聞作りの活動に取り組むやすくなると考えている。